

「幻のサメ」いざ解剖!!

24日・鴨川シーワールドで

昨年5月、館山市洲崎沖で定置網にかかり、死んだ後に鴨川市内で冷凍保存されていた巨大サメ「メガマウスサメ」が24日、同市の水族館「鴨川シーワールド」で解剖される。サメ研究の第一人者で「さめ先生」として知られる仲谷一宏・北海道大学名誉教授が手がける。生態など不明な点が多く「幻のサメ」とも言われており、どのような謎が解き明かされるか注目される。

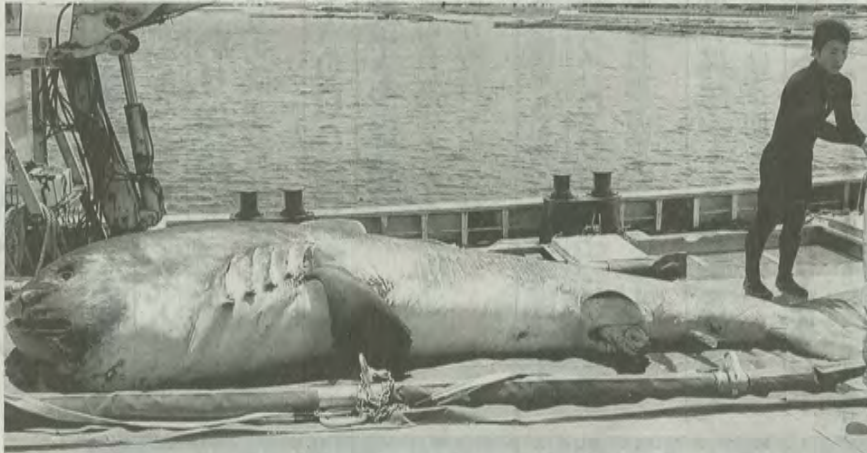
丸い頭と大きな口が特徴で、同館によると、捕獲例は世界で1〜1例、国内で22例しかない。館山沖で見つ

かったのは体長約5.4メートル、体重1.2トンのメス。当初は泳ぐ姿が確認されたが、捕獲翌日にいけすの中で死んだことが確認された。

同館の荒井一利総支配人は「体内に子供がいれば研究は飛躍的に進む。サメの骨は水分を含んだ軟骨が多く、従来の技術では骨格標本を作ることができなかったが、最新技術を導入して挑んでみたい」と世界初の骨格標本作りに意欲を見せる。

24日の解剖は年間パスポート会員の小中学生30人に公開される。

【中島章隆】



昨年5月に定置網にかかったメガマウスサメ＝鴨川シーワールド提供